

はじめに

随想・小説・評論など、国語の教科書には多くの文章が載っています。そこでは、さまざまな言葉が使われています。よく知っている言葉、なじみの薄い言葉、初めて目にする言葉もあるかもしれません。そのように個々の言葉への理解に差がある状態で、しかし私たちは、読もうとすればなんとなく文章全体を読めてしまっています。なぜでしょうか？ それは、文章には書き手の伝えたいことが厳然として存在し、そのことが筋道となって貫かれているため、部分部分で言葉の理解が伴わなくてもある程度は前後関係から推察できてしまうからです。

しかし、ここに大きな落とし穴があります。なんとなく読めても、正確な理解には繋がりません。なぜなら、それぞれの言葉は、なんとなくそこにあるわけではないからです。文章の書き手は、自分の考えを伝えようと、確かな意図のもとに言葉を選び取ります。ある場所で、ある言葉を使うのは、使うだけの理由があるからです。読み手である私たちは、まずは一語一語おろそかにせず、確認することからはじめなければなりません。

ところで、教科としての国語の最終的な目標はどこにあるのでしょうか。ただ文章を読んで理解するだけではありません。理解した内容をきっかけに自分自身の考えを膨らませ、他者と伝え合い、よりよく影響し合うことにあります。それは、言葉を介した豊かなコミュニケーションを目指すもの、と言い換えることもできるでしょう。私たちは他者の言葉を理解し、同時に、他者に言葉を発する存在なのです。

本書では、読んだり表現したりする際に有用な言葉を厳選し、921語収録しました。また、まとめて知っておきたい言葉のグループは、理解するうえでのポイントもあわせて示しておきました。本書を通じて、皆さんがより豊かな言葉の読み手、使い手となるよう、切に願っています。

目次

第1章 基礎語

随 想①～④	4～11
小 説①～⑥	12～23
評 論①～⑦	24～37
演習問題	38～39

第2章 標準語

随 想①～④	40～47
小 説①～⑥	48～59
評 論①～⑥	60～71
演習問題	72～73

第3章 発展語

小 説①～⑥	74～85
評 論①～⑨	86～103
演習問題	104～105

第4章 カタカナ語

①～③	106～111
-----	---------

第5章 四字熟語

①～②	112～115
-----	---------

索 引	116～120
-----	---------